

## 第57期中央労働講座に参加して

日本海地方本部新潟支部  
臨港分会 松田祐樹

豊橋シーパレスで開催された、第57期中央労働講座に5月27日～29日の日程で参加してきました。

初日は、開講式ののち、鈴木委員長による「全港湾の歴史」について講義を受けました。全港湾は、戦後1946年に結成がされ、戦後の混乱を乗り越え、現在まで歴史がつながっています。今年は結成80年の節目の年に全港湾の歴史を学習でき、とても勉強になりました。また、先輩たちの偉大さに気付かされる講義となりました。その後、各班に分かれグループ討議を行いました。初日ということもあり最初は沈黙の時間がありましたが、グループ内の先輩が意見を出せるような雰囲気を作ってくれたおかげで有意義な討議ができました。

2日目は、前参議院議員の森屋隆さんによる、「今の日本の政治情勢と今後の行方」と松永書記長による「産別協定と事前協議制度」について講義を受けました。森屋さんの講義の中で印象に残ったのが、「他力本願的世論」という言葉です。“誰かがやってくれるだろう”今の社会の一般的な考え方だと感じました。我々の組合組織、運動に置き換えても同じことが言えます。執行部だけが一生懸命運動を行っても意味がありません。職場組合員と共に団結できるかが鍵になると感じました。松永書記長の講義では、産別協定の大切さ、事前協議の重要性を再認識することができました。今置かれている状況は、決して当たり前ではなく、先輩たちが闘いの中で勝ち取り、我々に残してくれた重要な協定です。私自身も勉強しながら後輩に伝えていきたいと思いました。2つの講義の後には、オリエンテーションとしてドッジボールを行いました。とても盛り上がりました。また、ドッジボールで優秀な成績を残した4班から、57期中央労働講座の級長が誕生しました。

3日目は、講義全体のグループ討論を行いました。我々の班のまとめとしては、「先人たちの闘争から歴史を学び、更なる闘える全港湾を組織するため全港湾最大の武器である【団結】を更に強化する。」とまとめました。

最後に、中央労働講座に参加させていただきありがとうございました。夜は、遅くまでまじめな話、くだらない話で盛り上がり、懇親を深めることができ有意義な3日間となりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。